

RC 湿式外断熱施工手順書 (マスターウォール仕様)

EIFSJAPAN株式会社

1 事前確認事項

- 1 躯体の平滑度を確認する。(不陸、段差は5mm以内とする。)
- 2 防水コーキングが完了しているか確認する。(サッシ廻り、打継ぎ、パイプ廻り等)
- 3 下地の表面の汚れ、レイトランスの除去の確認。

2 樹脂モルタルの作り方

- 1 容器内のF&Mベースコートをよく攪拌して下さい。
- 2 F&Mベースコートに少しずつポルトランドセメントを加えよく攪拌して下さい。(重量比1:1)
- 3 5分間寝かした後、再度攪拌し硬い場合は水を加え施工しやすい硬さに調節して下さい。
- 4 F&Mベースコート1缶に対し2.8ℓ以上の水は加えないで下さい。



F&Mベースコート(施工面積:20㎡/缶)

3 バックラップ (スターターメッシュで端部を補強します)

- 1 スターターメッシュを張る

EPSを貼る前に、最下部、上げ裏、開口部まわりなどシステムの端部は、樹脂モルタルを使用しEPSの上に63.5mm以上の重ね代がとれるよう、スターターメッシュ(0.24m×45m)を躯体に貼り付けて下さい。



開口部バックラップ



端部バックラップ

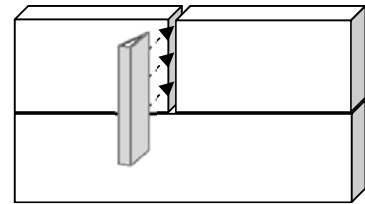
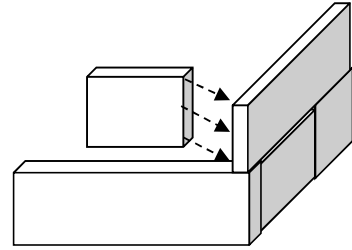
直径200mm以下のパイプ廻りのバックラップは必要ありません。

EPSの小口にベースコートを厚めに塗布して下さい。

- 1 樹脂モルタルの用意
- 2 EPSの裏面に樹脂モルタルを楕目コテで縦方向にかすれが無いように塗布し、必ず馬踏み目地状に、段差がないように接着して下さい。 出隅ではやり違い貼りして下さい。



EPS接着面の樹脂モルタルは
専用接着鍍で縦に塗る



3mm以上ジョイントに隙間があった場合はくさび状にカットしたEPSを詰めて下さい。 樹脂モルタルで埋め込まない。

- ・ 開口部、パイプまわりなどの浸透部は10mm以上のコーキング代を設けて下さい。
- ・ EPSのジョイントが開口部の角にこないようにして下さい。
- ・ ジョイントに段差がある場合はサンダーコテで削るか、樹脂モルタルで平滑にして下さい。
- ・ サンダーコテを使用する場合は、軽く円を描きながら平滑にして下さい。
- ・ 打継ぎ等の段差の大きい箇所はダンゴ貼りで対応して下さい。
- ・ 1日以上養生して下さい。



EPSに樹脂モルタルを縦法行為に塗る



RCIにEPSを貼り付ける



F&Mベースコート(施工面積:20㎡/缶)
メッシュ(施工面積:45㎡/巻)



①樹脂モルタルにメッシュを埋め込む

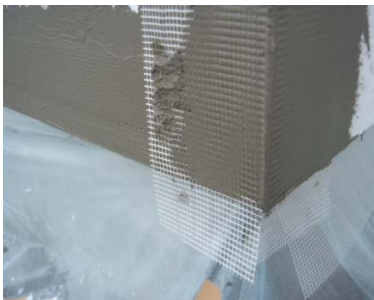


②樹脂モルタルにメッシュを埋め込む



下地完成

- 1 バックラップの処理を建物下部から進めて下さい。
- 2 メッシュ(1m幅)のサイズよりわずかに広い範囲に樹脂モルタルを塗布し、表面が乾く前にメッシュを被せ、シワができないように中心から外側へコテで押さえていき、完全にメッシュを埋め込んで下さい。(前項の写真参考)
- 3 出隅はメッシュを二重貼りにし、重ね代は200mm以上とり、固めの樹脂モルタルを使用しメッシュの浮きが無いように処理して下さい。
- 4 開口部の四隅は300mm×250mm程度のメッシュを斜めに貼り補強して下さい。小口(EPSの断面)もしっかり樹脂モルタルを塗って下さい。
 - ・ ジョイントの段差を樹脂モルタルで処理した場合は、樹脂モルタルの乾燥を確認して下さい。
 - ・ メッシュの重ね代は65mm以上とって下さい。
 - ・ F&Mベースコート1缶に対し2.8ℓ以上の水は加えないで下さい。
 - ・ 表面の状態や、仕上げ材の塗り方によっては乾燥後に2度塗りをして下さい。
 - ・ 1日以上養生して下さい。施工時の天候具合で乾燥時間が変化するので注意して下さい。



端部補強



開口部補強



開口部補強



パイプ収まり



足場の合判

- 1 樹脂モルタルの乾燥を確認して下さい。
- 2 出隅、入隅、端部が整っていない箇所、メッシュの浮き、不陸等ある場合は必ず手直しをして下さい。
- 3 仕上げ材を調合して下さい。 **専用カラー（耐、色あせ商品）で仕上げ材に色をつける**
 - ・ 仕上げ材1缶に対して、カラーボトルを1本入れて下さい。
 - ・ ボトルに残ったカラーは、ボトルの1/3まで水を入れ、よく振り仕上げ材に入れて下さい。この工程を2、3回行いボトルに付いたカラーを全て取り、よく攪拌して下さい。
 - ・ 施工性を考慮し水を入れて調節する場合は、合計で300cc以内の水で行って下さい。

【パーフェクト】 最大の骨材よりも厚くならないよう一定の厚さで塗り、表面が乾く前にプラスチックコテで円を描くように動かしながら模様を出していく。

【スプレー】 骨材の約1.5倍の厚さで塗り、表面が乾く前にプラスチックコテで円を描くように動かしながら平滑にしていく。

【リフィニッシュ】 最大の厚さを5mm以下にしながら仕上げていく。

きれいに仕上げるポイント

- ・ 施工がうまく継続して進行するよう、十分な人員と足場を確保して下さい。
- ・ 仕上げ材の端部は常に乾く前に塗り足して下さい。
- ・ 各施工者は必ず同じコテを使用し、同じ方法でコテを動かしながら、壁全体に渡って模様が均一になるように整えて下さい。
- ・ プラスチックコテに付いた仕上げ材は絶えずへら等で取って下さい。
- ・ 変色の原因になる為、仕上げ面に水の使用は避けて下さい。
- ・ 1日以上養生して下さい。



仕上専用：プラスチックコテ



パーフェクト



スプレー



リフィニッシュ

青色のフタ	：パーフェクト	(11～12.5㎡/缶)
白色のフタ	：スプレー	(11～12.5㎡/缶)
オレンジ色のフタ	：リフィニッシュ	(11～12.5㎡/缶)

- 1 F&Mベースコート及び仕上げ材の保管温度は直射日光を避け4℃以上38℃未満にしてください。
- 2 施工時の気温が4℃を下回ると乾燥時間が極端に長くなります。 施工後の天候に注意してください。
- 3 施工後も24時間以上もしくは材料が乾燥するまで表面温度は4℃以上を保ってください。
- 4 4℃以下の施工は硬化不良（浮、剥離）を起こします。仕上げ材は変色する恐れがあります。
- 5 施工中に雨や雪が降ってきた時は、直ちに施工を中断しシート養生をして施工面を保護してください。
- 6 寒冷地での施工では凍害に注意してください。
- 7 コーキングの上に仕上げ材を塗布すると、ひび割れ、剥離が起きる場合があります。
- 8 スムースを薄く塗り過ぎるとメッシュの跡が出る場合があります。
平滑に仕上げたい場合は2度塗りをしてください。
- 9 保管温度は、4℃以上、または38℃以下になる場所に保管してください。

スターターボードの使用例



- スターターボードを使用する場合、開口部の四隅にジョイントができるので、確実にメッシュで補強して下さい。
- スターターボードのジョイントは必ずメッシュを貼って下さい。

